

教委だより

No.438



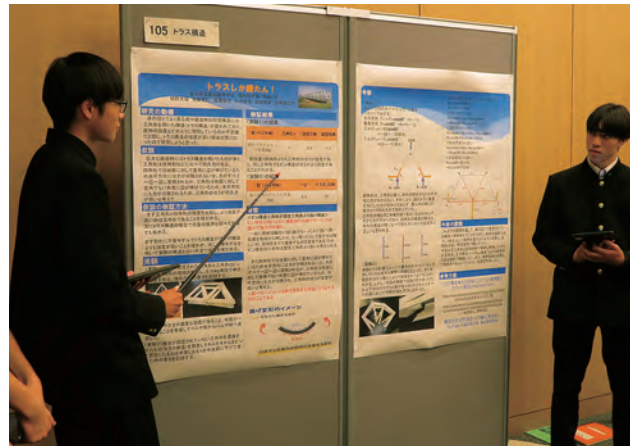
令和6年2月29日

編集発行 富山県教育委員会
発行人 教育企画課長

探究科学科三校合同課題研究発表会

富山、富山中部、高岡高校の探究科学科（理数科学科・人文社会科学科）による「三校合同課題研究発表会」が12月17日（日）に富山国際会議場で開催され、3校の2年生約240人が57班に分かれ、これまでの研究成果を披露しました。

ステージでの代表発表「ナメクジの行動と記憶」（富山中部高校）では、ナメクジの記憶の仕組みに迫る研究発表が行われ、活発な質疑応答がありました。この他にも、女性により継承される女紋を研究した「女紋どんなもん?? ～富山県の女紋徹底調査～」(高岡高校)や、光触媒が持つ効果を研究した「名触媒チタン 青色（メチレンブルー）の消失」（富山高校）など多岐にわたるテーマが並び、ポスターセッションでは、それぞれの研究内容を共有しました。3校の生徒以外にも他校生徒や中学生、保護者、教育関係者など多くの方々が生徒の発表に聞き入りました。



ポスターセッションの様子

第11回 科学の甲子園ジュニア（中学生）全国大会

昨年12月8日（金）～10日（日）に、第11回科学の甲子園ジュニア全国大会（「アクリエひめじ」（姫路市文化コンベンションセンター）で開催）において、とやま科学オリンピックの上位入賞者6名（中2生）で構成された富山県代表チームが総合成績で4位入賞となりました。なお、競技種目のうち、筆記競技では5位、実技競技②(工作分野)では5位の成績を収めました。

県代表チームは、2中学校（早月中・富山大学教育学部附属中）からなる合同チームでした。大会前の研修会でチームワークを高め、大会では各メンバーがその実力を最大限に発揮しました。

なお、3月に開催される第13回科学の甲子園（つくば市で開催）には、とやま科学オリンピックで好成績を収めた富山中部高校が県代表として出場します。



Contents (主な内容)

● 探究科学科三校合同課題研究発表会	1p	● 令和5年度教育功労賞者等表彰式	6p
● 科学の甲子園ジュニア全国大会	1p	● 総合教育センターNOW	7p
● 高校生とやま県議会	2p	● とやまの小・中学生ライフプラン教育充実事業	8p
● 第28回富山県中学校文化祭	2p	● ふるさととやまの自然・科学ポイントラリー	8p
● 第35回富山県高等学校文化祭	2p	● 幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指して	8p
● 「高志の国文学」情景作品コンクール 表彰式	3p	● 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果より	9p
● 夢の卵育成事業（富山県ひとづくり財団）	3p	● 令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等に関する調査	9p
● 学校給食優良学校等表彰	4p	● 令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果	10p
● 健康教育実践優良学校表彰	4p	● 子育てネッ!とやま	11p
● 学校給食とやまの日（小矢部市）の取組	4p	● 公民館deつながるモデル事業	11p
● 全国中学校体育大会	5p	● 中学校・義務教育学校及び高等学校卒業者の進路状況調査結果	11p
● 全国高等学校総合体育大会	5p	● とやま学校多忙会解消推進委員会	12p
● とやま高校生マイスター認定式	6p	● とやま科学オリンピック2023	12p
● 永年勤続教職員表彰式	6p	● 親子でチャレンジ小学生体験教室	12p

令和5年度「高校生とやま県議会」開催

高校生の主体的な政治参加意識や地域参画意識の向上を図ることを目的に、今年度も「高校生とやま県議会」を実施しました。7月27日の開会式では、県内の高校2年生40名の「高校生議員」に議員認定証が渡され、12月18日の本会議までの4回の活動において、株式会社POTETO Mediaの古井康介氏による講演や知事・県議会議員との意見交換等を通して政治参加の大切さを学びました。さらに高校生議員は5つの委員会に分かれて、「みんなのウェルビーイング向上」をテーマに、高校生の視点から県政に対する提案を協議、発表しました。



本会議の様子

第28回 富山県中学校文化祭

「咲き誇れ 創造の花 文化の秋風に揺られて」のスローガンのもと、10月8日に「第28回富山県中学校文化祭」が新川文化ホールで開催されました。県内の中学校及び義務教育学校、特別支援学校の生徒が、音楽や郷土芸能、放送、美術等10部門で日頃の活動の成果を発表しました。会場を訪れた観覧者は、みずみずしい感性が光る作品やステージ発表に見入っていました。



平中学校生徒による五箇山民謡



出町中学校生徒による合唱

第35回 富山県高等学校文化祭

第35回富山県高等学校文化祭が11月10日～12日を中心会期として、富山県民会館をメイン会場に開催されました。今年のテーマ「～創造と個性があふれ出す 新たな伝統の始まりへ～」には、これまでとは違う新たな時代を全員でつくっていかうという思いが込められています。日々文化活動に励む高校生の創造性あふれる作品展示やステージ発表は、会場を訪れた観覧者を魅了しました。



郷土芸能専門部「越中八尾おわら」八尾高校



吹奏楽専門部 300人超参加の大会奏

「高志の国文学」情景作品コンクール 表彰式

今年で14回目となる「高志の国文学」情景作品コンクールの表彰式が11月15日（水）高志の国文学館で行われました。

今回も、美しく豊かな富山の自然や風土の中で育まれた富山ゆかりの「高志の国文学」に触れ、心に残る情景や心情を表現した素晴らしい作品が数多く出品されました。表彰式では、知事賞・金賞を受賞した生徒に荻布教育長より賞状が授与され、代表として高岡高等学校2年沖田明香里さんがあいさつをしました。



夢の卵★育成事業



（富山県ひとづくり財団）

「将来こんな仕事に就きたい」という「夢の卵（将来の夢）」（作文）を募集し、優秀者をその道の専門家のもとへ派遣しています。19回目となる今年度は、小中あわせて1,089作品の応募があり、その中から4名が、夏休み期間中に短期入門しました。

小学生の部 2名（応募数526作品）



音楽の力で人を元気にできる音楽療法士になりたい

北林 来幸さん（高岡市）

介護が必要になった人に元気を取り戻してもらうために自分が何をできるかを考え、音楽療法士である丹保博美さんらに入門。特別養護老人ホームでのセッションに参加し、音楽療法士の業務内容や求められる技術、姿勢について学びました。



音楽療法についての講義



自然を守る森林官になりたい

寺本 芽生さん（富山市）

身近な素晴らしい自然環境を後生に残していく森林官に大きな魅力を感じ、林野庁 中部森林管理局 富山森林管理署に入門。森林官の仕事である国有林の管理（間伐・境界巡視等）や立山室堂における高山植物の保護などを体験しました。



スギの伐採方法についての解説

中学生の部 2名（応募数563作品）



体の不自由で困っている人々を助ける義肢装具士になりたい

松野 瑞生さん（富山市）

障がいのある人たちの義肢や装具をつくり、個々の生活を支援したいと、富山県リハビリテーション病院・こども支援センターに入門。義肢装具士と患者さんとのやりとりも見学し、障がいのある人々を支える意義ややりがいについて学びました。



義肢のメンテナンスを見学



遺跡の発掘で富山の歴史を解き明かす考古学者になりたい

岩崎 愛さん（砺波市）

身近な桜町遺跡の見学から、歴史をひもとく考古学者になりたいと、奈良文化財研究所に入門。平城京跡から発掘された土器のかげらの洗浄や接合に挑戦し、実際の遺構で発掘体験をするなど、考古学者の卵として貴重な経験となりました。



土器の洗浄・接合体験

学校給食優良学校等表彰



令和5年度学校給食優良学校等が選ばれました。

	富山県教育委員会表彰	(公財)富山県学校給食会表彰
学校給食 優良学校等	富山市立速星小学校 砺波市学校給食センター	富山市立萩浦小学校 南砺市立福光中部小学校
学校給食 功労者	清水 雅恵 (富山市立五福小学校 学校栄養職員) 高宮 玲子 (富山市立大久保小学校 調理員) 嶋 里美 (南砺市立福野小学校 調理員)	北野 明子 (富山市立太田小学校 調理員) 河西 明子 (富山市立月岡小学校 調理員) 田村 はる美 (富山県立しらとり支援学校 調理員) 遠北 玲子 (富山県立にいかわ総合支援学校 調理員)

健康教育実践優良学校表彰

令和5年度健康教育実践優良学校の総合・近視予防・歯と口の健康の3部門に7校が選ばれました。

	総合の部門	近視予防の部門	歯と口の健康の部門
優良校	魚津市立清流小学校	射水市立大門小学校	砺波市立庄東小学校
準優良校	富山市立倉垣小学校	射水市立放生津小学校	入善町立上青小学校
努力校	射水市立下村小学校		

学校給食とやまの日(小矢部市)の取組

県教育委員会では、「富山県食育推進月間」に合わせて11月中の一日または数日を「学校給食とやまの日」とし、県産食材を積極的に使用した学校給食を実施することとしています。県内の小中学校、義務教育学校では、市町村や学校給食関係者の協力を得ながら、地域の食材をふんだんに取り入れた、特色ある献立が提供されています。

富山県の西に位置し、メルヘン建築で有名な小矢部市では、新鮮な地元の食材が給食に登場します。11月22日(水)には、小矢部市立津沢小学校で農産物の生産者と交流を深める「おいしい食材ありがとう会食」が4年ぶりに開催されました。当日は、小矢部産の富富富、白菜と里芋を使った白菜鍋や鶏肉のりんごソースかけ等が提供されました。生産者は「夏の暑さで葱が枯れ、給食に出せないかと思った時が一番つらかった」「自分の作った野菜をおいしいと思ってもらえると嬉しい」など、日頃の苦労や喜びを話してくださいました。生産者との会食は、児童の食料生産等に関わる人々への感謝の気持ちや、食べ物を大事にする心を育む良い機会となりました。



当日の献立



生産者への質問タイム



生産者との会食

令和5年度 全国中学校体育大会

「全国大会で活躍した富山県の中学生」

富山県中学校体育連盟 理事長 藤田 慎吾

「君の夢 四国の蒼空で 咲きほこれ!」のスローガンのもと、令和5年度全国中学校体育大会が四国ブロックで開催されました。本県から13競技に220名が参加しました。大会では、氷見北部中学校女子ハンドボール部の3位をはじめ、水泳競技の大西琴葉選手（城端中）の女子200m背泳ぎ3位、同100m背泳ぎ4位など、4競技7種目において入賞を果たしました。

さらには、滋賀県で開催された第31回全国中学校駅伝大会において、大沢野中学校が女子の部で見事2位となり、県勢過去最高の成績を残しました。3区を走った黒川志帆選手は区間賞となる力走を見せてくれました。



全国中学校駅伝大会
女子の部2位 富山市立大沢野中学校



全日本中学生ホッケー選手権大会
女子の部2位 小矢部市立蟹谷中学校

また、全日本中学生ホッケー選手権大会では、蟹谷中学校女子が2位、全日本中学選手権競漕大会では、大沢野中学校が3位に入賞するなど、多くの選手が全国の舞台で活躍しました。来年度は、北信越ブロックで全国中学校体育大会が開催されます。本連盟ではさらなる選手の育成支援を進めてまいります。

令和5年度 全国高等学校総合体育大会

富山県高等学校体育連盟 理事長 山本 一登

高校生のスポーツの祭典、令和5年度全国高校総体は、「翔び立て若き翼 北海道総体 2023」のスローガンのもと、7月～8月に北海道と山形県、栃木県、和歌山県で開催され、本県からは中村謙作県高体連会長を団長として、30競技に502名の選手が参加しました。

本県選手はよく健闘し、ウエイトリフティング女子64kg級、同じく女子76kg超級でそれぞれ2位、ハンドボール男子、水泳女子100mバタフライ、柔道男子73kg級、ウエイトリフティング男子89kg級でそれぞれ3位入賞を果たすなど、10競技27種目で8位以上に入賞する好成績を収めました。

また、2月には「雪上で燃ゆる 熱き魂 富山の大地を駆け抜けろ」のスローガンのもと、全国高等学校スキー大会が17年ぶりに富山県で開催され、本県選手が活躍しました。

富山県の高校生諸君が全国高校総体での経験を今後の人生に活かして、各方面で活躍してくれることを期待しています。



現地激励会



競技の様子 (ハンドボール男子: 氷見高校)

令和5年度とやま高校生マイスター認定式

第2回となる、とやま高校生マイスター認定式が2月21日(水)に実施され、47名の生徒に認定証が授与されました。この制度は、県内の高校生(工業科、農業科)を対象に、「ものづくりコンテスト」「ロボット競技大会」「農業クラブプロジェクト発表会」などの全国大会等において、特に優秀な成績を収めた生徒や高度な資格を取得した生徒をマイスターとして認定することにより、生徒のやる気を喚起し、意識・意欲・専門性の向上を図り、「ものづくり人材」や「6次産業化人材」の育成に結び付けようとするものです。認定の後、代表生徒の高岡工芸高校3年網谷聡志さんが「挑戦する気持ちを忘れず、地域社会に貢献できるように精進していきたい」と今後の抱負を含めた謝辞を述べました。



認定を受けた生徒の皆さん

永年勤続教職員表彰式

7月3日(月)、令和5年度永年勤続教職員表彰式が、県民会館で行われました。県全体では、勤続年数30年が149名、勤続20年が135名、合計284名が表彰を受け、その代表者に表彰状が授与されました。

荻布教育長は、式辞で謝意を表しました。

これに対して、中田嘉幸高岡商業高等学校長が、代表として謝辞を述べられました。



令和5年度 教育功労者等表彰式

11月1日(水)、令和5年度富山県教育委員会教育功労者等表彰式が、県庁4階大ホールで行われました。この表彰は、学校教育や社会教育、文化やスポーツの分野で優れた業績をあげた方を表彰するもので、今年度は、50個人と10団体が選ばれました。

荻布教育長は式辞で、「教育県富山として全国に誇りうる教育を展開しているのも、ひとえに、皆様の比類ない使命感と不断の努力の積み重ねに負うところが大きい」と功績をたたえられました。

受表彰者の皆様の、今後ますますのご活躍をお祈り申しあげます。



総合教育センター NOW

教育研修部

特別支援教育の充実に向けて

近年、小・中学校の特別支援学級や通級指導教室で指導を受ける児童生徒が増加し、発達障害の可能性のある児童生徒が小・中学校の通常の学級や高等学校に在籍するようになってきたことから、小・中・高等学校全ての教員に、特別支援教育に関する一定の知識・技能を有していることが求められるようになってきました。令和5年10月に改訂された「富山県公立学校の教員等の資質向上のための指標」でも、「教職の実践」の六つの柱の一つに「特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応」が挙げられています。

このような現状を受けて、教育研修部では、全教職員対象の基本研修の中で計画的に、全ての教職員が基礎的な知識・技能を身に付けることができるように、右のような特別支援教育の研修を組み込んでいます。

これらの研修で学んだことを生かして、全ての教員が、様々な児童生徒に対して、各自のライフステージに合った適切な対応を行い、児童生徒の可能性を引き出す教育を実現していくことを願っています。

【若手教員研修（初任研）】

- ・講義：発達障害の理解と対応（基礎編）
- ・講義・協議：特別な支援を必要とする児童生徒への対応（小・中）
- ・特別支援学校参観（高）

【6年次教職員研修】

- ・講義：人間関係を深めるコミュニケーション
- ・講義・演習：困難な状況にある児童生徒の理解とその対応
- ・講義：発達障害の理解と指導の実際

【中堅教諭等資質向上研修】

- ・講義・演習：発達障害の理解と対応（応用編）
- ・特別支援学校に学ぶ体験型研修会

【新任教務主任研修会】

- ・講義：特別支援教育と教育計画
- ・演習：特別支援教育充実のための取組

【新任教頭研修会】

- ・講義・演習：全校で取り組む特別支援教育



6年次教職員研修より

科学情報部

初任者研修会「授業におけるICT活用」

9月から2月にかけて、初任者研修会「授業におけるICT活用」を実施しました。

研修の内容は、講義「授業におけるICT活用に関する最近の動向」と、模擬授業と協議「ICT機器を活用した授業構想」となっています。

今年度より研修用 Wi-Fi を設けたため、すべての参加者が日ごろ使用している1人1台端末を持参して研修できるようになりました。

小学校・中学校の研修では、各自治体におけるICT利活用の違いや、使用しているクラウド型授業支援アプリケーション（ロイロノート、ミライシード等）の違いに、驚きや発見の声がありました。

高等学校・特別支援学校の研修では、Google Classroomを用いて、事前に文部科学省 StuDX Style サイトの閲覧やYouTube文部科学省チャンネルの動画視聴、生成AIサービスGoogle Bardの利用申請が行えるようにしました。当日は、教育DXに精通した大学教授の鼎談動画の視聴や、付箋サービス「ふきだしくん」や生成AIの利用体験、Chatスペースを用いた意見交換などを取り入れ、クラウドサービスを活用した新たな学びへの対応を意図した研修としました。協議では、各学校における1人1台端末の運用の違いが話題となりました。

初任者が、クラウドサービスを十分に活用した個別最適で探究的な学びを展開できるよう、ご支援をお願いいたします。



ICT活用研修会（高等学校）

教育相談部

特別支援教育 研修コンテンツ配信中

富山県総合教育センターウェブサイト (<https://www.center.tym.ed.jp>)

- 🕒 時間のあるときに、どなたでも、視聴することができます。
- 🕒 1コンテンツ10～20分です。
- 📍 学校内で研修として視聴することもできます。

※コンテンツは順次
アップロードしていきます。

<p>「発達障害って？」</p> <p>富山大学 教授 小林 真</p>	<p>「インクルーシブ教育システムの推進とは？」</p> <p>新潟大学教職大学院 教授 長澤 正樹</p>	<p>「特別支援教育コーディネーターの役割とは？」</p> <p>新潟大学教職大学院 教授 長澤 正樹</p>	<p>「個別の教育支援計画とは？」</p> <p>富山大学 教授 小林 真</p>	<p>「『通級による指導』の役割と指導の実際」</p> <p>富山県西部教育事務所 小中巡回指導員 長井 久恵</p>
<p>「特別支援教育における連携について」</p> <p>富山大学 教授 小林 真</p>	<p>「医療的ケアの必要な児童生徒の学校生活について」</p> <p>富山大学 教授 宮 一志</p>	<p>「発達障害について～幼児期の理解と対応～」</p> <p>富山大学 教授 小林 真</p>	<p>「発達障害について～小学校・中学校での理解と対応～」</p> <p>富山大学 教授 小林 真</p>	<p>「発達障害について～高等学校での理解と対応～」</p> <p>富山大学 教授 小林 真</p>
<p>「各教科等を合わせた指導（生活単元学習）について」</p> <p>富山大学 准教授 和田 克紀</p>	<p>「障害のある方の就労支援について」</p> <p>富山障害者就業・生活支援センター センター長 長野 親治</p>	<p>「富山県内の障害児支援の現状」</p> <p>福祉サービスにおける障害児支援の各事業の役割について</p> <p>旭光学園 園長 橋本 伸子</p>	<p>「ディスレクシアと読みについて」（仮）</p> <p>大塚医科大学小児高次脳機能研究所 特設講師 奥村 智人</p>	<p>「協調運動と書きについて」（仮）</p> <p>大塚医科大学小児高次脳機能研究所 特設講師 奥村 智人</p>

とやまの小・中学生ライフプラン教育充実事業

県教育委員会では、子供たちが富山で働き、暮らし、子育てするよさを知り、自分のライフプランを考えることができるよう、小・中学校等の授業で活用できるライフプラン教育用冊子の作成や「ライフデザインセミナー」（地域で活躍する方の講話）や「乳幼児ふれあい体験」の実施を通して、ライフプラン教育の普及・充実を図っています。

今年度、「ライフデザインセミナー」を実施した学校からは、「生徒にとって、働くことの責任や大変さ、人の役に立つことの大切や喜びについて改めて考えるよい機会となった」などの報告がありました。また、参加者の9割を超える児童生徒が「ライフプランの大切さを考えさせられた」と回答していました。

今後も本事業を継続し、県内の小・中学生がライフプランについて考える環境を整えていきたいと考えています。

ふるさととやまの自然・科学ポイントラリー

県教育委員会では、富山の自然等を通して探究する態度や科学する心を育てるために、副読本「ふるさととやまの自然・科学ものがたり」を作成し、電子ブック化するとともに、昨年度、活用リーフレットを発行しました。そして、掲載されている自然や施設の見学、観察・実験を行うごとにポイントがたまるポイントラリーを、1～6年生を対象に実施し、20ポイントに達した児童には認定証を交付しています。

今後も、授業や地域学習での利用、家庭学習等での活用を促すなど、子供たちの探究心の育成につなげていきたいと考えています。



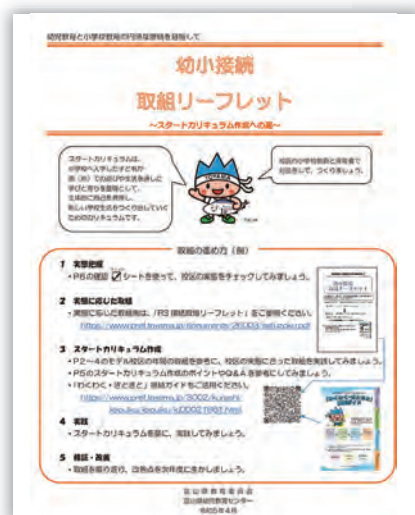
幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指して

県教育委員会幼児教育センターでは、令和3年度より「幼児教育・小学校教育接続推進事業」において、幼小接続モデル校区を設置し、校区の実態に応じて、幼児期の育ちを小学校に円滑につなぐ取組を進めています。今年度は最終年度であり、3年間で県内15市町村すべてにモデル校区を設置したことになります。

令和3年度は「幼児教育と小学校教育の相互理解のための合同研修会の開催」、令和4年度は「幼小協働でのスタートカリキュラムの作成」、今年度は、これまでの取組に加え、作成したカリキュラムの見直しと架け橋期である小学1年生の環境づくりに取り組んでいます。モデル校区での成果は、リーフレットや県のホームページ等で周知に努めています。

来年度以降、市町村を中心に、各校区で円滑な接続に向けて取組を進めていく段階に入っていきます。3年間の接続推進の取組がしっかりと根付いていくよう、研修、情報発信等の支援を行っていきます。

幼児期における「遊びを通した総合的な学び」が小学校からの「各教科等における自覚的な学び」に円滑につながることで、子供が主体的に自己を発揮しながら学びに向かい、幼児期を通して育まれた資質・能力をさらに伸ばしていくことができるよう、今後も取組を進めていきたいと考えています。



富山県 接続取組



令和5年度 全国学力・学習状況調査結果より

令和5年4月に実施された全国学力・学習状況調査では、4年ぶりに中学校で英語が実施されました。7月に文部科学省より結果が公表され、本県は、小・中学校とも全ての教科において全国の平均正答率以上の結果となりました。

本県の学校教育は、市町村教育委員会や各学校における個に応じたきめ細かな指導の積み重ねや保護者や地域の方々の理解と協力により、支えられているものと考えております。今後も学習習慣、生活習慣の定着や授業改善等に取り組み、子供たちの学びを支えていくことが大切であり、引き続き市町村教育委員会と連携しながら、各学校の取組を支援してまいります。

	小学校6年		中学校3年		
	国語	算数	国語	数学	英語
本県平均正答率	69%	65%	71%	54%	46%
全国平均正答率	67%	63%	70%	51%	46%
R5(全国との差)	(+2)	(+2)	(+1)	(+3)	(±0)

令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等に関する調査

— 暴力行為・いじめ・不登校 —

文部科学省の「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果（県内国公立学校分）が、10月に公表されました。＜文部科学省の公表データのみ記載＞

【暴力行為の発生件数】

() は、本県・全国の1,000人当たりの発生件数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	合 計
R 4	501 (10.6) (国9.9)	338 (13.1) (国9.2)	30 (1.2) (国1.3)	869 (8.8) (国7.5)
R 3	488 (10.1) (国7.7)	332 (12.6) (国7.5)	26 (1.0) (国1.2)	846 (8.4) (国6.0)

暴力行為の発生件数は、R3年度と比べ、全ての校種で増加しました。1,000人当たりの発生件数は、小・中学校で全国平均を上回り、高等学校では下回っています。

【いじめの認知件数】

() は、本県・全国の1,000人当たりの認知件数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	特別支援学校	合 計
R 4	1,107	693	131	32	1,963 (19.6) (国53.3)
R 3	841	612	69	17	1,539 (15.1) (国47.7)

いじめの認知件数は、R3年度と比べ、全ての校種で増加しました。県全体の1,000人当たりの認知件数は、全国平均を下回っています。

【不登校児童生徒数】

() は、本県・全国の1,000人当たりの不登校児童生徒数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校
R 4	856 (18.2) (国17.0)	1,336 (51.7) (国59.8)	483 (19.2) (国20.4)
R 3	725 (15.1) (国13.0)	1,112 (42.3) (国50.0)	419 (16.2) (国16.9)

不登校児童生徒数は、R3年度と比べ、全ての校種で増加しました。1,000人当たりの人数は、小学校は全国平均を上回り、中学校、高等学校は全国平均を下回っています。

日ごろから規範意識の醸成や自己肯定感の向上、教育相談体制の充実等の取組により、問題行動や不登校の未然防止を図るとともに、児童生徒をきめ細かく見守り、家庭や専門家、関係機関と連携して早期発見・早期対応に努めることが大切です。

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

スポーツ庁が発表した調査結果(概要)には「令和4年度調査との比較では回復基調であるが、コロナ以前の水準には至っていない。」「小・中学校とともに回復の度合いに男女間で差がある。」とあり、「小・中学校男子の運動意識の高まり」、「体育の授業以外の運動時間の減少」と「スクリーンタイム※の増加」といった傾向が挙げられています。

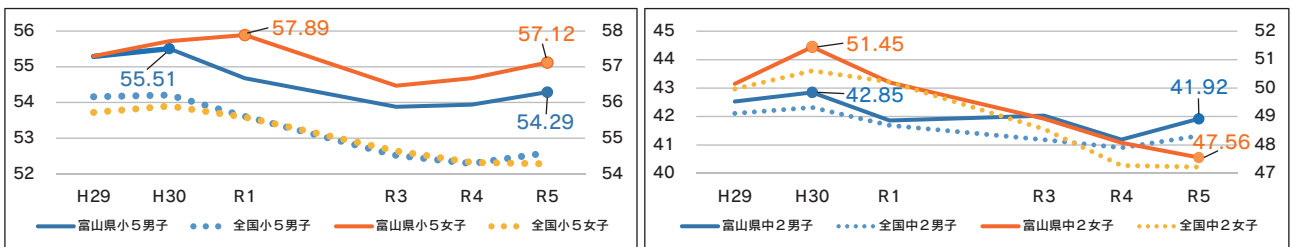
本県の体力合計点は、小学校男女及び中学校男子では改善し、コロナ(令和元年)以前の水準に戻りつつあり、「体力は回復傾向」にありますが、中学校女子においては昨年に引き続き低下しており、依然として「体力低下が続いている」といえます。
 ※スクリーンタイム…平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等による映像の視聴時間

1 体力・運動能力、運動習慣等調査結果の富山県概要

〈小5・中2の調査結果：悉皆調査〉 (網かけ：本県平均値が全国平均値以上の種目)

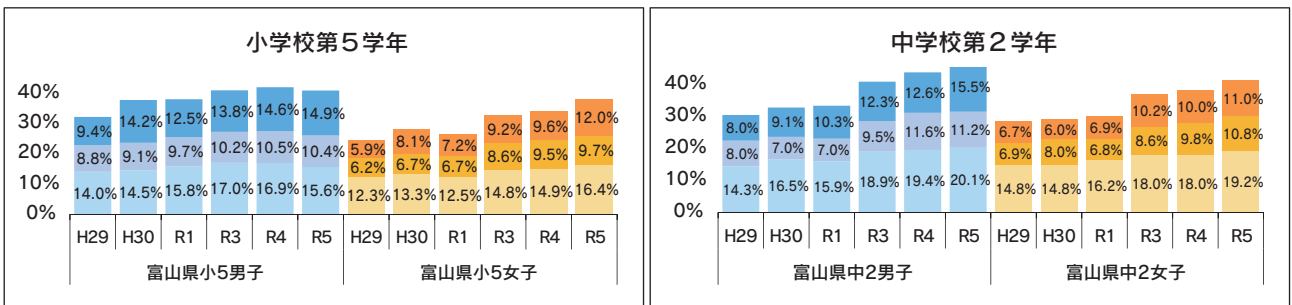
種目等	小学校第5学年(公立)				中学校第2学年(公立)			
	男子		女子		男子		女子	
	本県	全国	本県	全国	本県	全国	本県	全国
握力(kg)	16.37	16.13	16.21	16.01	29.10	29.02	22.68	23.15
上体起こし(回)	19.25	19.00	18.74	18.05	25.71	25.82	21.39	21.62
長座体前屈(cm)	33.84	33.98	38.51	38.45	44.14	44.16	46.31	46.27
反復横とび(点)	43.38	40.60	42.17	38.73	51.40	51.22	45.95	45.65
持久走(秒)					411.77	409.02	307.72	306.26
20mシャトルラン(回)	52.46	46.92	43.46	36.80	78.78	78.07	52.02	50.70
50m走(秒)	9.52	9.48	9.66	9.71	8.05	8.01	9.01	8.95
立ち幅とび(cm)	156.85	151.13	151.85	144.29	201.18	197.02	169.35	166.34
ボール投げ(m)	21.58	20.52	14.74	13.22	21.08	20.40	12.68	12.43
体力合計点	54.29	52.59	57.12	54.28	41.92	41.32	47.56	47.22

2 体力合計点(各種目の記録をそれぞれ得点化し、合計した点数の平均値)の推移



※令和2年度は調査なし

3 スクリーンタイム(平日の視聴時間が3時間以上の割合)の推移



※積算グラフは下から「3~4時間」、「4~5時間」、「5時間以上」

本県の小・中学生の男女においても、スクリーンタイムは引き続き増加傾向が見られます。児童生徒一人一人がスクリーンタイムを含めた生活を見直すとともに、生活の中に運動の習慣を位置付けるなど、規則正しい健康的な生活習慣を作ることが重要です。

また、運動を行うことで脳の動きが活発になり、集中力が高まったり、不安な気持ちが和らいだりすると報告されています。児童生徒が心身ともに健康な生活を送っていくためにも、運動の効果や必要性について、児童生徒及び保護者に繰り返し伝えていくことが大切です。

子育てネッ!とやま

今年度も親子のコミュニケーションに生かすことができる家庭教育に関する動画を制作し、HP「子育てネッ!とやま」で配信していますので、是非ご利用ください。また、家庭教育や子育てに関する情報を「子育てネッ!とやま」LINE公式アカウントで随時配信しています。



子育てネッ!とやまLINE公式アカウント
友だち登録

公民館deつながるモデル事業

県では今年度より「公民館deつながるモデル事業」に取り組んでいます。地域住民の交流の拠点である公民館が、これまで提供してきた集合対面型の事業とデジタルを組み合わせ、人々が多岐につながる新たな公民館活動を支援する事業です。



公民館職員「スキルアップ講座」



県外公民館とのオンライン交流
「ご当地健康体操」

今年度は、9市町村の11モデル公民館に取り組んでいます。オンライン講座の仕方やSNSの活用、2次元バーコードの活用等デジタル活用に関する5回の実技講座と実践発表等の研修を行い、公民館職員のスキルアップに努めました。

モデル公民館では、ホームページやSNSでの公民館活動の情報発信、ハイブリッド講座、「ご当地健康体操」等県外公民館とのオンライン交流の実践が行われました。公民館職員へのスキルアップ支援が公民館活動のデジタル活用に生かされ、事業の効果が見られました。今後、さらに地域活性化につながることを期待しています。

中学校・義務教育学校及び高等学校卒業者の進路状況調査結果

— 令和5年5月1日現在 —

1 中学校・義務教育学校 <表1>

令和5年3月に県内の中学校（国立1校、公立74校1分校、私立1校）、義務教育学校（公立3校）を卒業した生徒は8,750人でした。高等学校等進学率は99.3%、就職率は0.1%でした。

<表1> 中学校・義務教育学校卒業者の進路状況

各年3月	実数(人)						割合(%)		
	a 卒業生	b 高等学校等 進学者	c 専修 学校等 進・入 学者	d 就職者	e その他	f (再掲) b,cの うち 就職者	b/a 高等 学校等 進学率	c/a 専修 学校等 進・入 学率	(d+f)/a 就職率
R3	9,031	8,969	3	8	51	-	99.3	0.0	0.1
R4	8,907	8,851	3	4	49	1	99.4	0.0	0.1
R5	8,750	8,689	1	11	49	1	99.3	0.0	0.1

2 高等学校 <表2>

令和5年3月に県内の高等学校（公立37校2分校、私立10校）を卒業した生徒は8,308人でした。大学等進学率は57.5%、就職率は19.7%でした。

<表2> 高等学校卒業者の進路状況

各年3月	実数(人)						割合(%)				
	a 卒業生	b 大学等 進学者	c 専修 学校等 進学・ 入学者	d 就職者	e 左記以外の者 無認可 の予備 校・私 塾等	f 左記b,c のうち 就職者	b/a 大学等 進学率	c/a 専修 学校等 進学・ 入学率	(d+f)/a 就職率	(b+c+d +e)/a 進学と就 職の割合	
R3	8,720	4,775	1,829	1,751	207 365	158	5	54.8	21.0	20.1	98.2
R4	8,517	4,814	1,772	1,580	195 351	156	3	56.5	20.8	18.6	98.2
R5	8,308	4,774	1,558	1,633	189 343	154	1	57.5	18.8	19.7	98.1

※詳しくは、HPをご覧ください。

(https://www.pref.toyama.jp/3003/kurashi/kyouiku/gakkou/shinrojoukyou/sotugo_r05.html)

とやま学校多忙化解消推進委員会

教員の働き方改革、多忙化解消に向けた方策を議論・検討する「とやま学校多忙化解消推進委員会」を開催しました。昨年度に引き続き、委員長に大橋 聡司氏（富山経済同友会副代表幹事）、副委員長に中村真由美氏（富山大学経済学部教授）をはじめとし、経済界、法曹界、PTA、校長会、市町村教育委員会、職員団体からの計15名の委員で構成し、2月19日（月）に開催しました。

今年度発足した「若手教員による働き方改革のためのワーキング・グループ」が、これまでの協議内容を報告するとともに今後の取組みについて提案を行い、教員の働き方改革によって、心に「余白」があり、ひとりの人間としての幅が広い「シン・センセイ」という新たな教師像を実現することを呼びかけました。

今後は、会議で議論された内容を踏まえて、教育委員会と学校が行うべき多忙化解消の方向性を示す「とやま学校多忙化解消推進プラン2024」に基づく取組みを具体的に実施することで、教職員の時間外勤務時間の削減を目指します。

—むすかしいところがおもしろい— ～考えよう 楽しもう 科学の世界～ とやま科学オリンピック2023

今年で12回目を迎えた「とやま科学オリンピック 2023」は、8月5日（土）に魚津高校、富山中部高校、高岡高校、砺波高校を会場として中学校部門が、8月10日（木）に富山大学及び県総合教育センターを会場として高校部門が開催され、465名の生徒（中学校部門256名、高校部門209名）が参加しました。

今年度より高校部門は、全分野2人1組ペアで共通問題と、選択した数学・物理・化学・生物の筆記・実験・観察問題に取り組みました。

アンケートでは、「昼気楼など富山にまつわる問題のため、地元の楽しさを発見できた」、「中学校の時とは違い、2人で参加するという形式はとても新鮮で楽しかった。来年リベンジしたい」、「学校で学んだことを応用して問題が解けて楽しかった」という感想がありました。



中学校部門



高校部門物理分野



とやま科学オリンピックHP

親子でチャレンジ小学生体験教室

8月19日（土）に開催された「親子でチャレンジ小学生体験教室」では、小学校5、6年生の児童と保護者が参加しました。前半は県総合教育センターにて親子で「風船ホバークラフト」を製作し、後半は2つのグループに分かれ、ドローン体験と教育版マイクラフト化学実験を行いました。

アンケートでは、「風船ホバークラフトは、物理の原理が実際の船などに使われていることを教えてもらってうれしかった」、「ドローン体験ではいつもできないことができ楽しかった」、「ゲームで化学に興味をもつ子が増えるとよいと思う」、「親子で参加できる体験教室という設定が良い」という感想がありました。



風船ホバークラフト製作



ドローン体験



教育版マイクラフト化学実験